

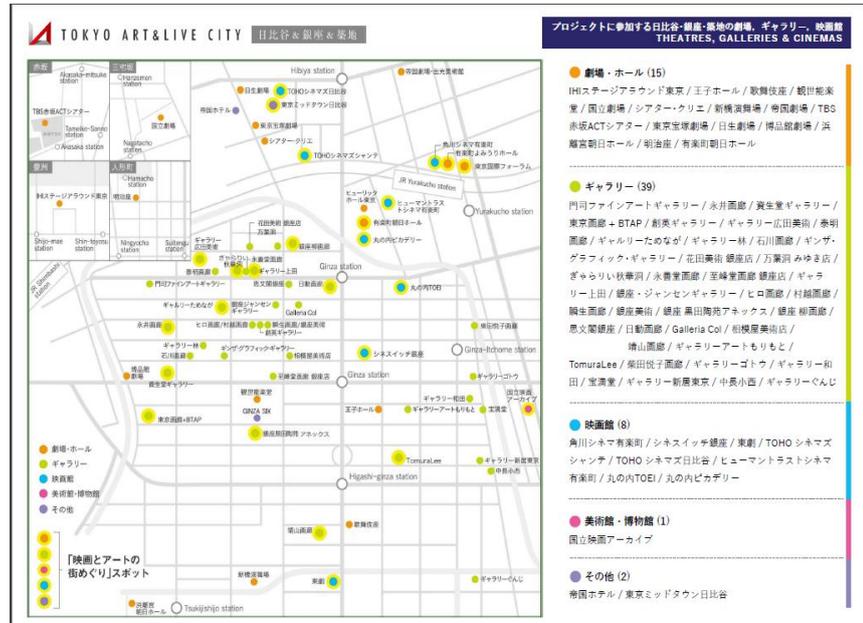
5年目に突入した東京アート&ライブシティ <https://www.artandlive.net/>

◆2月1日WEBサイトリニューアル！-日比谷、銀座の67芸術拠点を多言語紹介

公演アーカイブと劇場ツアーの映像を限定無料公開

2018年1月に、銀座・日比谷・築地エリアを「日本が誇るべき芸術集積地」として全国および世界に発信するため「東京アート&ライブシティ構想実行委員会」(TAL)が発足、着実に実績を積み重ねてきました。その柱となる一つが、この地を世界でも稀にみる芸術の集積地としている67もの劇場、ギャラリー、映画館の基本情報の多言語発信。日本語と英語でスタートしたウェブサイトは、今年2月1日から中国語(簡体字・繁体字)が加わりさらに充実しました。また当エリアでの催事情報が一覧できることから、徐々にアクセス数を伸ばしています。

この度、コロナ禍でも芸術の魅力を楽しんで頂こうと、豪華出演者による珠玉の2公演と、劇場ツアー2本を無料で公開します。皆様この機会に是非ご覧ください。



■公演アーカイブ (2月24日までの限定公開)

①-1 「はごろも」～銀座の飛翔～王子ホール×観世宗家監修

武田宗典、篠崎史紀、森谷真理の挑戦第2弾

-2 「はごろも」制作秘話が満載の公演アフタートーク 司会：加藤昌則 (作曲家)

2020年12月1日 観世能楽堂

② 「日本舞踊と音楽～江戸から今」から4作品

箏曲・舞踊 《闌拍子》 箏 深海さとみ 舞踊 水木佑歌

長唄 《勸進帳》 唄 杵屋勝四郎 三味線 杵屋栄八郎 ほか

箏曲 《六段》 箏 米川敏子

創作舞踊 《祈》 演出振付 尾上菊之丞 作曲 林英哲

舞踊 花柳貴代人 水木扇升 藤間蘭翔

演奏太鼓 林英哲 尺八 藤原道山 ほか

2020年11月11日 観世能楽堂

■劇場ツアー

① 観世能楽堂バックステージツアー 観世三郎太ほか

② 王子ホールの魅力発見 篠崎“まろ”史紀 星野桃子 (王子ホール支配人)

◆東京アート&ライブシティの挑戦～王子ホールと観世能楽堂のチャレンジ

5年前、この地の劇場やギャラリー、映画館の横の連携は殆どありませんでした。皆が競合相手です。しかしTAL設立総会で、王子ホールと観世能楽堂が意気投合し、連携公演の話が持ち上がりました。何か新たなものに挑戦しよう、創造しよう。その熱意は、安易なコラボに終止せず、時間をかけて模索し続けた中で数々の名演が生まれました。東京アート&ライブシティの連携の象徴として。その熱は確かです。2022年2月25日、是非観世能楽堂にお越しく下さい。

2018年11月 「日仏宮廷恋愛模様～はてさて雅か嫉妬の情念か」 観世能楽堂
能とバロック音楽の二部制。本経験を経て、次は一つの作品制作へ

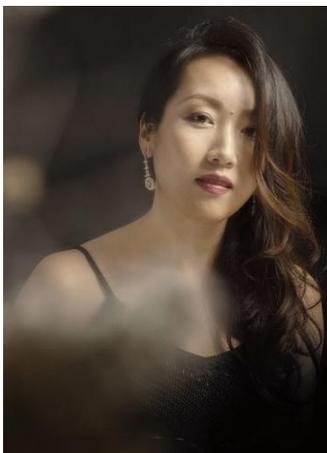
2019年7月 「はごろも～銀座の飛翔」 王子ホール

2020年12月 「はごろも～銀座の飛翔」 観世能楽堂

作曲に加藤昌則、シテ武田宗典、ヴァイオリン篠崎“まる”史紀、ソプラノ森谷真理を迎え新たな挑戦。空間を変えた再演では、異なる世界観を表現

2022年2月 「ADACHIGAHARA」 観世能楽堂

はごろもの経験を経て新たな地平を切り拓こうと、一步踏み込んだ創造の域へ。10月には王子ホールで再演予定



我々が鬼女を演じます！
武田宗典×森谷真理



ヴァイオリンと大鼓がつくる世界は？
篠崎“まる”史紀×亀井広忠

◆コロナ禍を乗り越え～「私たちは芸術を届けつづけます」

2020年、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に更なる展開を図ろうとした矢先に、新型コロナウイルス感染症の拡大により事業計画の見直しが迫られました。しかし文化庁アートキャラバン事業と連動した「TOKYO ART&LIVE CITY 2020」として、能楽師や歌舞伎俳優も特別出演した街歩き SoundAR 企画「水樹奈々・平原綾香～Voice Musical Walk with U」を展開、翌2021年には、この地に移ってきた東京国際映画祭と連動した SoundAR 第二弾「映画とアートの街めぐり」で、芸術のまちの新しい魅力や楽しみ方を発見するチャレンジをしてきました。TAL 発足当初から参加拠点は18から29に拡大し、春の日比谷フェスティバル、秋の東京国際映画祭との連携など大きな広がりを持っています。

江戸から東京、近代の歴史の蓄積を背景に、さまざまな芸術が重層的に集積する日比谷、銀座、築地。世界でも稀にみるこのエリアは、コロナ禍の中でも芸術を届け続けています。

この姿を是非、全国の多くの人々に知ってもらいたい、世界に届けたいと願っています。